

自分らしく生きること

弘前市立時敏小学校

伊藤 楓乃花

わたしは本が好きで、毎週図書館に行っています。そこで『作り直し屋』という本が目に入りました。カラフルでかわいい表紙が目に入り、おもしろそうだと思い手に取りました。

『作り直し屋』という物語は、主人公のツルさんが、いなくなつた物や捨てられないものから、魔法ですてきな物を作り直して、持ち主に新しい可能性や希望をあたえていく物語です。私がこの物語の中で印象に残つたシーンは三つあります。

一つ目は、ミアという女の子が、弟のためにほしい物をがまんして星のモビールを買うシーンです。私はこの話を読んで、ミアをそんけいしました。なぜなら、ミアはほしいものがあつたのに、病気がちな弟へ星のモビールを買つたからです。もし私だったら、ミアのように自分がかまんしてまで兄に何かを分けることができなかつたと思います。しかし、家族のためになるなら、自分をぎせいにすることも時には必要だと考えました。

二つ目は、もらったホテルのドアで家を建てるのが夢のトクさんが、こわれてしまったドアをドールハウスに作り直してもらうシーンが好きです。なぜなら、トクさんは家族のためにするべきな家を建てたいと思つていましたが、一人ではかなえることができなかつたからです。私は今、琴ことの発表会に向けて練習しています。一人だけではつらくてあきらめてしまふようになりますが、家族がいつしよに夢をかなえてくれようとしたことが大きな力になると思いました。

三つ目は、ツルさんがエプロンを作り直すためにさいほう箱を使うシーンです。なぜなら、自分に自信のなかつたツルさんが、ちよつとしたキツカケで自分の才能に気付いたからです。私は何をやつても失敗すると決めつけてしまひます。しかし、自分の好きなことを好きなようにだれかにあわせるのではなく、自分らしくいていいんだと思ひました。

『作り直し屋』を読み終えて、大切な家族のためにがまんをしたミアをそんけいし、家族と一緒に夢をかなえたトクさ

んに喜び、自分らしく生きることができたツルさんにきょう
味をもちました。ツルさんがいなくなつたものを作り直す
ことが持ち主の思いこみを取り除き、一歩ふみ出す勇気を与
えてくれたと感じました。いつも私を応援してくれる家族

を、自分自身を大切に、周りでなやんでいる人がいたら
一歩ふみ出す勇気を与えられるような、だれかによりそえる
人間になりたいと思いました。